

製品のお買い上げにあたって

ローパーティション

■KIパネル／TFパネル共通 直線レイアウト制限

●パネルを直線に設置する場合には、転倒を防止するため、図37～図42に示す条件を守ってください。控えパネルは、幅600mm以上でかつ直線パネルとの高さの差が500mm以下のものを採用してください。

☆仕器の配置や躯体の仕様によっては制限の範囲が異なります。

制限範囲を超えたレイアウトに関して事故などが生じた場合は、保証対象外となります。

●ドアパネルの壁への直接固定はできません。

-----:フックシェルフ取付可能位置(フック取付推奨位置)



図37 両側控え



図38 片側控え+片側安定脚



図39 (高さ1250を超えるもの) 全控えパネル床固定要



図40 (高さ1250以下に限る)(控えパネル幅450以上)

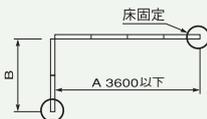


図41-1 片側一端控え(L型)
エンドパネル部は床固定要
B=A/2以上

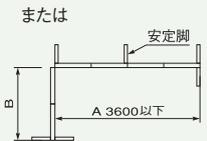


図41-2 床固定できない場合は、エンド部両端に両側安定脚、コーナー部の長手側パネルの外側に片側安定脚要。
パネルを3枚以上連結して使用する場合は、2枚につき1個外側へ片側安定脚を付ける

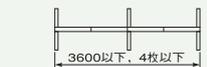


図42 両側安定脚(高さ1600以下およびパネル数4枚以下に限る)パネル2枚ごとに1対の安定脚を付ける
※ガラスパネル・コンビパネルを含む場合は安定脚のみの自立は不可

■LFシリーズ／KIパネル／TFパネル共通 ドアパネルレイアウト制限

●パネルを直線に設置する場合には、転倒を防止するため、図43～図46に示す条件を守ってください。控えパネルは、幅600mm以上でかつ直線パネルとの高さの差が500mm以下のものを採用してください。

☆仕器の配置や躯体の仕様によっては制限の範囲が異なります。

制限範囲を超えたレイアウトに関して事故などが生じた場合は、保証対象外となります。

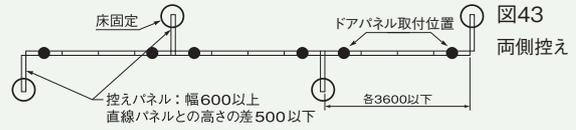


図43 両側控え

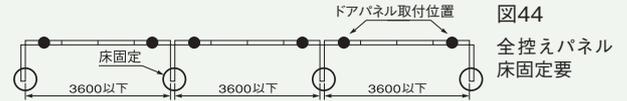


図44 全控えパネル床固定要

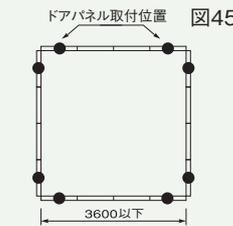


図45

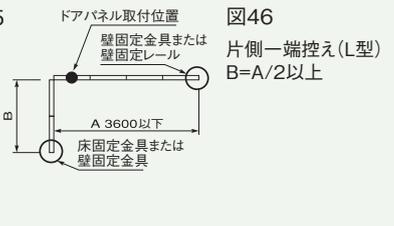


図46

片側一端控え(L型)
B=A/2以上

注)ドアパネルは必ずコーナー部に設置してください。
ドアパネル本体下には必ず床固定(アンカー留め)などの施工をしてください。
上記レイアウト制限に準じて設置した場合でも、パネルのぐらつき防止として安定脚などの併用をおすすめします。

■TFパネル スライドドア レイアウト制限

●パネルを直線に設置する場合には、転倒を防止するため、図47～図50に示す条件を守ってください。控えパネルは幅600mm以上でかつ直線パネルと同じ高さのものを採用してください。

●段差連結レイアウトはできません。

●スライドドアの隣に必ず幅1200mmのクロスパネル、またはスチールパネルを採用してください。

●直線パネルには、ガラスパネルのレイアウトはできません。

☆仕器の配置や躯体の仕様によっては制限の範囲が異なります。

制限範囲を超えたレイアウトに関して事故などが生じた場合は、保証対象外となります。

●ドアパネルの壁への直接固定はできません。

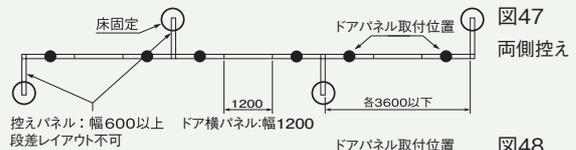


図47 両側控え



図48 全控えパネル床固定要

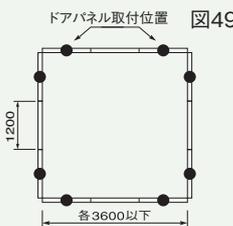


図49

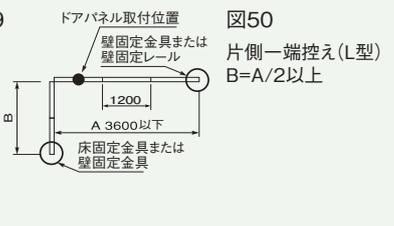


図50

片側一端控え(L型)
B=A/2以上

注)スライドドアは必ずコーナー部に設置してください。
スライドドア本体下には必ず床固定(アンカー留め)などの施工をしてください。
上記レイアウト制限に準じて設置した場合でも、パネルのぐらつき防止として安定脚などの併用をおすすめします。